

徳島県総合計画審議会「若者クリエイト部会」

H30年度「若者意見取りまとめ」

目次

I はじめに（現状・課題と今後, 意見とりまとめにあたっての取組み）

II 意見の概要（高校生・大学生アンケート, 新未来セッション）

III 若者意見の集約

(1) 特に注力してほしいポイント

(2) その他ポイント

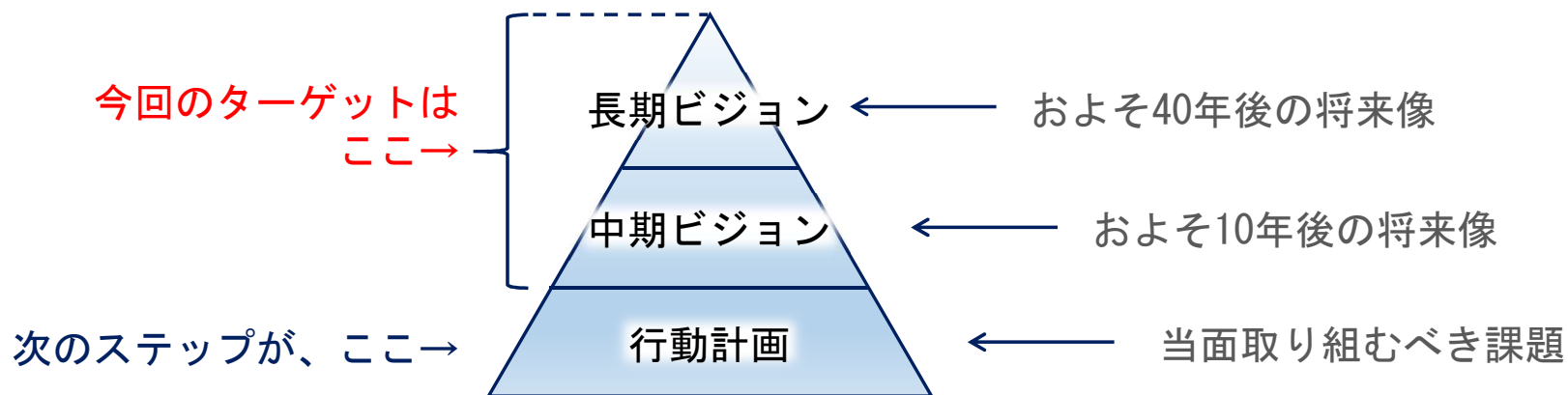
IV 今後に向けた提言

I はじめに

現状・課題と今後

全国的に少子高齢化・人口減少が生じている現状において、特に徳島においては、それを全国に先駆けて経験している。長期的かつ急速な人口減少と少子高齢化は、世界でも例がなく、わが国における今後の対策や解決策を提案し、実証していくことが、世界における前例となる。このような状況下で、多様な主体が協働して、如何に効率的・効果的に現在の課題を解決し、持続可能な発展、より高い幸福度を実現することが求められる。

若者クリエイト部会では、部会内に加え多くの方々との議論や意見交換を行ったうえで、現状での課題をふまえ、我々が考える徳島県の目指すべき将来像とそれを実現させるための施策の方向性を検討し、次ページ以降に示すようにまとめた。



意見とりまとめにあたっての取組み

◆高校生・大学生アンケート（H30.5月～6月実施）

アンケート対象：県内在住の高校生、大学生【約1,900名から回答】

アンケート項目：「徳島県への定住志向」「職業観」「結婚観」「徳島県の良いところ・良くないところ」「2060年頃の希望する将来像」等について調査

◆対話集会「新未来セッション」（H30.7月12,13,17日実施）

本県の将来を担う若者の「徳島の未来」に対する夢や思いを聴取するため、

下記により県内3圏域で実施

参加者：高校生（16校から計95名が参加）、大学生（3大学から9名が参加）、地域の活性化等に取り組まれている方、各界の第一線で活躍されている方、他県から移住された方など

実施手法：「地方創生の取組み」を動画で紹介した後、参加者間でのディスカッションや「インターネット投稿掲示板」を活用し意見受付

II 意見の概要

アンケート、新未来セッションでの主な意見

◆ポジティブな意見

○豊かな自然がある, 阿波おどりや伝統文化が素敵, 地域のつながりが深い, 保育施設が充実

◆ネガティブな意見

○公共交通の便が悪い(車がないと動けない), レジャー施設等がない, 希望する就職先がない

◆希望する徳島像

○地域のつながりがあり, 子育てしやすい地域であってほしい

○出産・子育て・就業等, 社会全体で若者を育むことができる
安定した社会であってほしい

○徳島県人がもっと 地域(徳島)のことや魅力を知る必要がある

○徳島県人が 徳島にもっと誇りを持つべき

○ 多様な仕事があり, 子どもから高齢者まで, 全ての人が生きがいを
持って生活できる社会

特に注力してほしい4分野

- ①阿波で育てる
- ②阿波を知る
- ③阿波で働く
- ④阿波を活かす

Ⅲ 若者意見の集約

- 目指す（描く）将来像
- それを実現させるための施策の方向性

(1) 特に注力してほしい分野

① 「阿波で育てる」

将来像

○ 働きながら子育てができる

情報通信技術の進展により「在宅勤務」や「テレワーク」といった多様な働き方が浸透し、ライフスタイルに合わせた子育て環境を選択することができる。

○ 社会で子育てを応援する

多様な働き方を選択できる社会が実現するとともに、社会全体で子どもを育むという意識が浸透し、性別等を問わず、育児に参加する社会環境も整っており、子育て世帯が不安なく子育てができる。

○ たくましい子どもたちを育む

子どもたちが豊かな心や健やかな身体、社会で自立できる力を身につけられる環境が整っている。さらに、子どもたちは夢や希望の実現に向け、毎日、意欲をもって挑戦している。

○ どこに住んでいても自ら望む教育が受けられる

どこに住んでいても、確かな学力、豊かで健やかな心身、幅広い体験など、自らが望む教育を受けることができる。

施策の方向性

○ 保育サービスの拡充

延長保育や休日保育など働きながら子供を育てる家庭のニーズに対応した保育サービスを拡充。

○ 「子どもはとくしまの宝」宣言

県内企業が社員の子育て環境整備や子育て支援に取り組むよう機運醸成を図るとともに、テレワークをはじめとする「多様な働き方」の浸透を図るため、企業向け広報活動や専門家によるコンサルティング等の実施、普及促進。《後述③で一部再掲》

○ 子どもを育む地域力の強化

学校・地域が連携し、阿波おどりをはじめとする徳島ならではの文化やスポーツ等の多様な体験、幅広い年齢層の集団の中で学びあう多くの機会を提供できるよう学校、事業所、地域のつながりを強化。

○ ICTの活用により教育環境の整備

ICTを適切に活用し、充実した教育サービスを整え、豊かな自然環境下で、県内のどこに住んでも、子どもが「心・知・体」ともバランスよく習得・鍛錬できる教育環境の整備。

② 「阿波を知る」

将来像

○ 郷土を知ることによって徳島スピリットが育まれる

子どもたちが徳島の自然や歴史はもとより、阿波藍・阿波人形浄瑠璃・阿波おどり・ベートーヴェンの第九など“阿波の文化”に親しみ、郷土に誇りを持ち、それを育んできた徳島を大切に思う気持ちが育まれている。《後述④に再掲》

施策の方向性

○ 若者の語り場

若者が同世代や世代をこえた人たちと語ることのできる場、“徳島のいま”を知ることができる場、若者が社会に対して意見を述べられる場の創出（その継続）。

○ 地域を支えるひとづくり

地域づくりを担う人材育成や組織の立ち上げ、また移住者の受け入れ態勢の構築を促進。

③ 「阿波で働く」

将来像

○ 誰もがイキイキ働く

AI等の情報通信技術の進展により、「在宅勤務」や「テレワーク」といった多様な働き方が浸透し、働く意欲をもつすべてのひとが特性に応じた職に就くことができ、生き生きと活躍することができる。

○ いつでもキャリアアップ

中学・高校・大学を卒業した後、就職しても、年齢を問わずスキル・キャリアアップを図るための教育環境が整い、ライフステージに応じた学びの場が提供されている。

施策の方向性

○ 「多様な働き方」の浸透

テレワークをはじめとする「多様な働き方」の県内企業への浸透を図るため、企業向け広報活動や専門家によるコンサルティング等の実施、普及促進。《再掲》

○ 高度な知識・技術を持つ人材育成

民間企業、学校、職業訓練機関が連携し、高度な知識やスキルを習得できる教育システムを構築。

○ スキルに応じたきめ細やかな人材マッチング

スキルアップした求職者の持つ能力を最大限生かせるよう求職者と企業の求める人材をマッチングする仕組みの構築。

④ー1 阿波を活かす（にぎわい・観光）

将来像

○ やっばりステキ

徳島が誇る阿波おどり、人形浄瑠璃、第九、藍といった「あわ文化」や、雄大な河川や海岸でのラフティング、サーフィンなどの体験型スポーツ、また「徳島マラソン」や「マチアソビ」に代表される徳島発のイベントなどのとくしまの「自然」「食」「文化」や、遍路文化で脈々と受け継がれてきた「おもてなし」の心が多くの人に評価され、国内外から観光客を惹きつけている。

○ 阿波おどりの聖地・徳島

多様な担い手によって受け継がれてきた”阿波おどり文化”が、戦略的な情報発信により、阿波おどり発祥の地、阿波おどりの聖地としてあらためて脚光を浴びている。

○ 観光人材が集う徳島

豊かな自然が大きな観光資源の徳島。自然豊かな地域においても、ICTを活用した住環境や教育環境が整い、観光従事者は安心して家族で居住することができる。

施策の方向性

- 「滞在型・体験型観光」商品の開発強化
滞在期間の長期化やリピーター確保のため、豊かな自然を活用したアウトドアツーリズムや、「ちいおり」のような農山村地域や伝統文化資源を活用したグリーンツーリズム等の体験型観光による誘客促進。
- 新たな観光資源の発掘
外部目線（都市部の大学等との連携など）による観光資源の掘り起こしや磨きあげを行い、他地域との観光資源の差別化。
- “インバウンドインフラ”の充実強化
インバウンドの受入態勢を整えるため、無料Wi-Fiスポットや観光施設、宿泊施設等が連携したインバウンド向けの情報提供サービスの充実。
- 新たな観光情報発信
従来手法による情報発信だけではなく、「vs東京」のような“注目されてこそその広報”手法の導入。
【例「阿波おどりの聖地・徳島」を世界に発信するため、徳島に“世界阿波おどり協会”を発足】
- 観光人材が家族で移住できる住環境の整備
自然豊かな地域の観光業の担い手（従事者）確保や同地域の持続可能な発展を図るため、ICTの活用により、十分な教育環境や住環境の整備。 《再掲》

④ー2 阿波を活かす（文化・伝統・スポーツ）

将来像

○ 自然とともに生きるスポーツ

雄大な河川や海岸でのラフティング、サーフィン、「徳島マラソン」など徳島の自然を堪能しながらできるスポーツの浸透・推進が図られている。

○ 幼・小・中並びに高・大等でのスポーツの推進とトップアスリートの育成

幼少期からスポーツに馴染みを持ち、スポーツをすることの得意不得意を問わず、スポーツをすることや応援・観戦することが身近になっている。

さらに、徳島出身もしくはゆかりのあるトップアスリートを育成することができている。

○ 郷土愛・徳島スピリットが育まれる

子どもたちが徳島の自然や歴史はもとより、阿波おどりや人形浄瑠璃などの“阿波の文化”に親しみ、郷土に誇りを持ち、それを育ててきた徳島を大切に思う気持ちが育まれている。《再掲》

○ 徳島の芸術文化がアツイ

子どもから大人まで、芸術や伝統文化への理解が深く、芸術活動を行う心豊かな社会となっている。

施策の方向性

○ 徳島の自然を活かしたスポーツの世界大会などの誘致

雄大な河川や海岸でのラフティング、サーフィン、「徳島マラソン」など自然を堪能しながらできるスポーツについて、住民理解や世界大会などの誘致の促進。

さらに、地域住民によるサポート体制の構築。

○ 多様なスポーツの立場の理解促進と連携

幼少期からするスポーツ・観るスポーツ・支え育てるスポーツに興味関心が持てるような教育やプログラムの強化促進。また、トップアスリート育成のため、選手のみならず、コーチや監督の育成を行う機会の増大。さらに、学校や地域のスポーツクラブ、企業などの連携の強化。

○ 子どもを育む地域力の強化

学校・地域が連携し、阿波おどりをはじめとする徳島ならではの文化やスポーツ等の多様な体験、幅広い年齢層の集団の中で学びあう多くの機会を提供できるよう学校、事業所、地域のつながりを強化。

《再掲》

○ 芸術文化習慣

芸術文化をより身近なものとして感じるための芸術や伝統文化等に関するイベントや個展の開催促進。さらに、徳島県内での開催のみならず、AI・IoTを活かし芸術文化に触れることができる機会の増大。

【例：イベント等開催の際の徳島サテライト会場の設置など】

(2) その他の分野

⑤ 次世代に誇りをもって引き継ぎたい「環境」

将来像

○ 自然やエネルギーを知る

子どもから高齢者まで全ての県民が地球温暖化や資源・エネルギーの有限性について正しい理解と知識を有しており、それぞれの役割・責任に応じ主体的に環境活動に取り組んでいる。

○ 未来に向け持続可能なライフスタイル

地球温暖化対策の推進はもとより、持続可能な地域・とくしまづくりを進めるため、水素、太陽光、木質バイオマスなど自然のエネルギー源・恵みを取り入れた「エコで快適なスマートタウン・スマートライフ」が県内に浸透している。

○ 地域美化活動で爽やかなまち

地域住民による地域づくりの一環として、キレイなまちが保たれ、住民の日常生活や旅行者などが快適に生活・旅行することができる。



⑤ 次世代に誇りをもって引き継ぎたい「環境」

施策の方向性

○ 地球温暖化防止など自然やエネルギーを知る

地球温暖化防止や自然エネルギーについての理解促進のための啓発講座の開講や楽しく学べるプログラムの実施促進。

○ スマート社会とくしま

地域で使用するエネルギーの地産地消や、次世代エコカーの普及等を推進するため、県民、事業者、行政が一体となりインフラ整備やシェアシステムの導入に向けた体制整備や機運醸成。

○ まち美化習慣

まちの美化やゴミに対する理解促進のための教育のさらなる促進。
また、学校や企業、地域コミュニティが連携した、まちの美化活動の普及啓発。

⑥ 革新的で持続可能な「経済・産業」

将来像

○ キラリと光る技術は徳島から

AI、IoTといった革新的な技術がものづくり、医療、農業、介護など幅広い分野にいち早く取り入れられ、本県の地域経済が力強く発展するとともに、徳島ならではのキラリと光る技術を活かした産業が創出されている。

○ 徳島の宝！農林水産業

徳島の誇る多くの農林水産物が安全・安心な食材・素材としてだけでなく、競争力・付加価値のある商品化がなされ魅力を増すことにより国内外での知名度も上がり、就農・就業する若者も増え、本県経済を支える基幹産業として発展している。



⑥ 革新的で持続可能な「経済・産業」

施策の方向性

○ 「第4次産業革命の先を行く徳島」

産学民官が一体となり、県内の幅広い分野・地域を実証フィールドとして、AI、IoT技術のモデル実証を重ね、実績ノウハウを蓄積することで新技術の創出や産業育成を推進。

○ 企業間・業種間の連携機会増大

異業種連携の機会を増大させるとともに、地元企業の既存技術や受け継いできた技術等とAI・ロボットなどの新たな技術との融合の促進。

○ 地元企業の理解促進と起業促進

既存の多くのすばらしい地元企業について、その内容を子どもころから理解し体験することができる機会の増大。ベンチャー企業のサポートの充実。

○ 新たな農林水産ビジネスの展開

一次産業の新たな担い手の確保はもとより、持続的な発展を促進するため、AI、IoT活用による熟練技術やノウハウの継承、省力化等を図る生産管理システムの構築や、大学、観光、サービス業とのマッチング等による商品開発化など六次産業化の取組を促進。

⑦ 非日常にも対応する日常から準備「防災・減災」

将来像

○ 住民も旅行者も協力して避難

災害時、住民や旅行者に正確な情報が適切に伝わり、避難がスムーズにできるとともに、避難誘導が速やかに実施される。さらに、避難経路や避難場所の安全性が確保されている。

○ 防災・減災意識の向上・醸成

防災意識が高く、自らの命を守り、独居者や災害弱者など近隣住民や旅行者などの状況を把握し、みんなで安全に避難できるように、自らの役割を判断し行動することができる。



⑦ 非日常にも対応する日常から準備「防災・減災」

施策の方向性

○ 災害発生時の情報提供システムの確立

災害発生時、住民や旅行者に正確な情報が適切に伝わるように、公的機関のホームページやSNS、その他多様なツールを用いた情報提供システムの確立。

○ みんなで避難訓練

自らが自らの命を守る「自助」、家族や企業、地域コミュニティ、さらには旅行者などともに助け合う「共助」、行政による救助や支援などの「公助」を正しく理解し、各コミュニティで、それぞれの立場を想定した避難訓練の実施、災害についての理解を深め意識を向上させるための啓発の促進。

【例：防災士をはじめとした防災についての指導ができる人材の育成など】

○ 避難経路や避難場所の整備・見直し

避難経路や避難場所の点検、周知の徹底と、それらの定期的な整備や見直しの促進。
さらに、地域住民や公的機関、避難場所となる施設、地域の企業間の連携強化。

⑧ 日々安心して快適に暮らせる「健康・医療・まちづくり」

将来像

○ 子どもも大人も健康

子どもの頃からの健康教育・食育を促進するとともに、成人してからも、「運動」「食生活」「社会参加」に着目した健康プログラム展開の実践により、県民の健康寿命が伸びるとともに、生活の質（QOL: Quality of Life）が向上している。

○ 地域で安心してイキイキと生活

高齢者や障がい者等、生活に支援が必要な方もIoTの進展や各地域で生活を支える仕組みが整うことにより住み慣れた地域で安心して暮らすことができる。

○ 安心住みか徳島

IoTや自動運転技術の進展、公共交通ネットワークの連携により、生活の移動手段が確保され、多様な移動手段を選択できるとともに、公共施設や病院、商店などがつながり、住民が安全安心、快適に暮らせるまちづくりが進んでいる。

⑧ 日々安心して快適に暮らせる「健康・医療・まちづくり」

施策の方向性

○ 健康立県とくしまを目指して

糖尿病等の生活習慣病を予防するため、特定検診者（40歳以上など）を対象としたインセンティブシステムを構築。【例：健康的な取組をマイレージカウントするアプリ開発など】

○ とくしま健康県民運動の展開

上記インセンティブシステムを核とした健康県民運動の展開。
【例：職場対抗・地域対抗によるゲーム感覚の競い合いなど】

○ 地域で支えるための仕組みづくり

福祉分野への技術革新の実装を進めるとともに、生活支援を必要とする方を各地域で支えられるよう、各地域の保健、医療、福祉、労働等の関係機関や地域住民が連携し、相談・サポート体制を構築。

○ アクティブシニアの活躍

多分野におけるアクティブシニアが活躍する場のさらなる創出に加え、ベテランの経験と知恵と若年層が持つ新しい感覚を互いに理解し共有できるような世代間交流の場の創出。

⑧ 日々安心して快適に暮らせる「健康・医療・まちづくり」

施策の方向性

○ 持続可能なまちづくり

まち機能の拡散を防ぐことによる”ゆるやかなコンパクト化”や、地域・集落間の公共交通ネットワークの連携を図ることによる、持続可能なまちづくりの促進。
また、公共交通についても、地域に応じた新たな公共交通の導入を促進。

○ 既存ストック（土地建物）の有効活用

土地、建物の有効活用や移住促進を図るため、土地、空き家情報と購入・借用者をマッチングする仕組みを構築。

○ 「地産地消」で地域を守る

中山間地域の保全を図るため、インフラ整備における地産地消（県産材の積極利用）を推進。

⑨ 施策の方向性

+ α

○ 取組の理解促進のための広報

多岐の分野にわたり多くの取組が多くの主体によりなされているが、それらが一部にしか理解されていないことに鑑み、取組分野間・取組主体間の連携を強化するとともに、ICT技術を活用し、多様なツールを用いて普及啓発を行う。

IV 今後に向けた提言

県政に若者意見を取り入れるための仕組みづくり

◆ 「若者クリエイト部会」への「新未来セッション」スタイルの導入

新たな政策立案や計画策定に際し、

若者の意見や考えを聴取・反映する目的で設置されている「若者クリエイト部会」

今回実施した「新未来セッション」での若者の声を踏まえ

新たな意見聴取の仕組みとして、現在の審議会・部会での議論に加え、

新未来セッションのような**“若者との対話集会”**スタイルの取り入れを提案

【提案の背景・理由】

◎若者（高校生・大学生）の声・ニーズとして

- ・ “徳島のいま”を知り学ぶ機会
- ・ 異なる立場の者（他校生徒、有識者、異なる年齢層）とディスカッションする機会を望む声が多く聞かれた。

⇒ 行政上の「若者意見の聴取」という目的に加え、「若者の学びの場の提供」という効果も併せ持つため

“若者との対話集会”を積極的に取り入れたスタイルが望ましいのではないか。



徳島県総合計画審議会「若者クリエイト部会」